

平成24年度初任者研修中国・四国地区研修会実施報告(概要)

本年度の初任者研修中国・四国地区研修会は、8月8日(水)・9日(木)・10日(金)の3日間、愛媛県松山市の「にぎたつ会館」外で愛媛県私立中学高等学校連合会の実施により開催され、中国5県及び四国4県から初任者125名が参加した。

初日の開会式では、主催者を代表して中川武夫・当研究所所長、また実施団体を代表して中村道郎・同連合会会長より初任者に対し今日の私学教育の重要性や新任者への期待などの挨拶があった。開会式の後、中川所長は「私立学校の現状と今後の課題」と題し、私立と公立学校との違い、私学教員としての心掛け、当研究所の活動等について、また野原明・文化学園大学杉並中学高校名誉校長は「教育の現状と私学の役割」と題し、教育を取り巻く諸状況の解説とその状況下における私学の立場・役割について、講演した。



初日の講義終了後は、125名の初任者と関係役員全員が参加して交流会が催され、夕食を共にしながら初任者を中心とした交流とネットワーク創りが図られた。

2日目は、生徒指導に関する講演、8グループに分かれての生徒指導に関する分散会、そして教科別分科会が実施され、前夜の交流会からの流れもあって各グループでは活発な意見交換が繰り広げられた。



3日目は、「気になる生徒への教育支援」と題し、発達障害の理解と特別支援教育に関する講演に続いて、「学級経営」の講義では先輩教師2名が、経験談として生徒一人ひとりに常に目配りをする大切さなど、初任者が参考とすべき心構えをとりあげ、実践報告を行った。

また、今回視察に訪れた当研究所の初任者研修等事業検討委員会委員長である平方邦行理事が、「これからの教育ー21世紀型教育ー」と題して特別講義を行い、「グローバル化社会における教育、21世紀に活躍するために身につけなければならない教育など、子ども達の未来を考えた教育をめざして欲しい。」と説いた。引き続き閉会式が行われ、中村会長の挨拶の後、平方邦行理事から代表者に修了書が授与され、3日間の研修を終了した。なお、平成25年度と同研修会は、広島県広島市で開催される予定である。

(2012.8.20)